

日本学術会議・地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会
SCOSTEP-STPP 小委員会(第 24 期・第 4 回)議事録

開催日時: 2019 年 5 月 26 日 12:30-13:25

開催場所: 千葉県千葉市美浜区ひび野 2-3 東京ベイ幕張ホール A07 会場
インターネット会議システム (zoom): <https://zoom.us/j/739906740>

出席者: 石井守、上野悟、大村善治、小原隆博、草野完也、塩川和夫(議長)、高橋幸弘、
津田敏隆、寺田直樹、廣岡俊彦、藤井良一、増田智、山本衛、吉川顕正

出席者(インターネット): 中村卓司、

欠席者: 坂尾太郎、末松芳法、星野真弘、村山泰啓

オブザーバ: 渡部重十

議事次第

塩川委員長から、資料 3 に基づき、次期 SCOSTEP プログラム(PRESTO)に関して、プログラム全体と 3 つの pillar に関する説明が行われた。今後のスケジュールとしては、7 月の IUGG 時に SCOSTEP 委員長が交替するので、その後、新委員長が主導して、PRESTO の代表や各 pillar の代表責任者を決めていくことになると思われる。この説明に対して、自由に議論を行った。議論の要点は以下の通りである。

・日本はこの分野で世界的に貢献が大きいので、pillar の代表など責任のある立場に一人くらいは入ったほうがいいのではないかと。

- 国内でもある分野の研究を推進しているような方が適任である。
- 国際的な貢献だけでなく、日本にもメリットがあるやり方を考えるべき。

・PRESTO を元にして、大型の研究費を獲得することが望ましい。

- 今、走っている PSTEP にテーマが近いので、新学術領域は難しいのではないかと。
- 各 pillar ごとに申請することも可能だが、PRESTO として全体である科学テーマを解決しようとしているので、バラバラに出すのは、PRESTO のコンセプトにそぐわない。

・大型予算を獲得して推進されている国際共同プロジェクトは多数あるが、SCOSTEP の国際プログラムは、そういう大型プロジェクトとデカップリングしていて、魅力あるものになっていない。

- 大型プロジェクトをリストアップして、それらを PRESTO に含めて推進したほうがいいのでは。
- Solar-C など衛星計画との関係はどうすべきか。
- 歴史的には、NASA の Living with a star プロジェクトなど衛星を中心としたプログラムと差別化を図るため、SCOSTEP としては衛星を前面に出さない形でプログラムを推進してきたが、最近はその傾向は薄まりつつある。
- PRESTO は、地上の多点観測には、フィットしたテーマになっている。
- 衛星計画とうまく連携していくべきである。

・VarSITI では、発展途上国の支援という特徴が強くなったが、PRESTO ではどうなるのか。

- 現 SCOSTEP 委員長の Gopalswamy 氏が、国連主導の ISWI にも深く関わっていたので、そのような傾向が強くなった。彼は、7 月の委員長交代後も past president という立場で SCOSTEP 執行部に残ると思われるので、今後もこの連携は継続されるのではないかと。

・SCOSTEP の Science Secretary が M. Shepherd(ヨーク大学、カナダ)から Pat Doherty(Boston Collage, USA、今年の ISWI ワークショップの SOC chair)に交代する予定。

(2) ISWI 活動など STPP 関連活動に関する情報交換

・塩川委員長から 2019 年 5 月 20 日の週にイタリアで開催された **International Space Weather Initiative Workshop** について、参加者は約 100 名で半数が発展途上国からの参加であったという報告があった。

・上野委員から、資料 4 に基づき、京都大学大学院理学研究科附属天文台の ISWI に関わる最近の活動について報告があった。

(3) 次期会合の予定

2019 年 10 月に熊本市で開催される SGEPS 総会および講演会の会期中、もしくは、それに近い時期に開くことが了承された。いずれの場合インターネット会議システムを利用する。

以上。